

〈研究論文〉

独立型社会福祉士の 開業システム構築に向けた研究

—— 開業臨床心理士への
インタビュー調査を通じて——

小榮住 まゆ子

I. はじめに

今日、わが国は、地域生活や自立生活が重視され、地域福祉、在宅福祉の充実が叫ばれている。それに伴い、社会福祉士は、介護保険制度や成年後見制度に象徴されるような制度・政策の充実によるサービス提供から個々の心理的側面を重視する支援まで、様々な生活上の問題を対象に、幅広く貢献することが求められている。さらに、その生活問題の多くが複雑、多様、長期化しており、地域に根ざした質の高い高度なソーシャルワーク実践が必要であると考えられている。

しかし、社会福祉士の多くが施設や機関に雇用されている現状では、組織内業務としてのソーシャルワーク実践という制約のなかで、社会福祉士の使命である人権擁護や社会正義に基づく利用者主体の課題解決や自己実現へ向けた支援の展開を最優先することが困難な場合もある。それは、ソーシャルワーカーのジレンマとして取り上げた多くの論文や著書⁽¹⁾からも理解できる。

こうした現状から、近年、社会福祉士が独立開業し、独立型社会福祉士として高度な専門性を発揮することが期待されている。独立型社会福祉士

とは、「地域を基盤として独立した立場でソーシャルワークを実践する者」⁽²⁾と定義づけられているが、社会福祉士登録者数が2010年で約12万人であるのに対し、独立型社会福祉士の登録者数は200人余にすぎず、独立開業への道のりは未だ困難なものであることが示されている。また、その実践内容にもバラつきがみられ、制度・政策に偏向した行政手続きの担い手と化し、アイデンティティなく営利主義に走る社会福祉士の存在も否定できない現状が明らかになっている⁽³⁾。

以上の経緯を踏まえ、本研究では、隣接領域の専門職としてすでに独立開業している臨床心理士に焦点をあて、どのような視野や発想、研修や業務をもって独立開業し、自らの専門性を発揮しているのか、また、独立型社会福祉士への認知度や期待度についてインタビュー調査を実施し、地域の包括統合的な相談支援職、すなわち高度専門職としてあるべき独立型社会福祉士の専門性や固有性、さらには、それらを担保する研修のあり方について示唆を得ることを目的とする。なお、本研究は、「ソーシャルワークの固有性にねざした独立型社会福祉士の開業システムの構築」(平成22～24年度)をテーマに、日本学術振興会科学研究費助成(基盤研究C)にて行った調査の一部を整理したものである。

II. わが国の独立開業する臨床心理士の現状

わが国の臨床心理士の資格は、現在、心理学を専攻する大学院修士課程を修了後1年以上の心理臨床経験を有する者が資格試験に合格した場合、財団法人日本臨床心理士資格認定協会により認定される民間資格である。資格取得後、5年ごとに資格審査が行われ、心理臨床能力の維持発展にむけた研修や研究が義務づけられている。また、この研修が一定のレベルに満たない場合は資格抹消といった資格基準が設けられている。

こうしたなか、独立開業する臨床心理士のための協会が設立された地域

もある。東海4県下で開業心理臨床を実践する臨床心理士の連携・研鑽組織として平成9年に設立された「東海開業臨床心理士協会」である。本協会のホームページによると、開業心理臨床とは、認定臨床心理士が、来談者との個別の話し合いと約束（契約）に基づき、有料で、こころの問題に対する援助を行う相談機関であり、その目的は、「東海四県下で開業心理臨床を実践する認定臨床心理士の相互連携と相互研鑽により、開業臨床心理士の資質の向上に努め、高度な開業臨床の技能を求める社会のニーズに応えて、社会の福祉に貢献すること」⁽⁴⁾とされている。

相談支援の対象は、主に、自分の性格や健康、子ども、家族、生き方に関する悩みや苦しみ、その他、緊急時・災害時後の心のケアや、職場のメンタルヘルスの相談・援助など、幅広くこころの問題に対応している。実践内容は、臨床心理面接で、主な技法は、心理療法、カウンセリング、精神分析、夢分析、遊戯療法、箱庭療法、芸術療法他等となっている。また、心理診断面接、観察、臨床心理アセスメントや心理療法の研修会、臨床心理士、精神科医、ソーシャルワーカーなどの専門家を対象とした教育分析、個別及びグループ・スーパービジョン、臨床心理学的なコンサルテーションや講演も実施している。

こうした独立開業の充実と推進が図られている一方で、臨床心理士の資格制度や実践活動をめぐる課題も山積している。まず、乱立する関連資格の問題、国家資格化の問題である。一般的にカウンセラーの資格は、臨床心理士以外にも産業カウンセラー、認定心理士他数多く存在し、その差も不明瞭であり、臨床心理士の国家資格化は、暗礁に乗り上げたままである。さらに、高度化しすぎた臨床心理士は、ソーシャルワーカーという新たな「カウンセラー」にとってかわられたという見解や⁽⁵⁾、日本におけるカウンセリングの不定着という原因が、精神科医療における生物学主義や、教師のカウンセリングマインドによる諸問題への対応が成功していることなどにあるという意見もある⁽⁶⁾。そして、診療報酬上、医師（精神科に限ら

ない) のみに、「カウンセリング」を含む「心身医学療法」の実施が認められ、臨床心理士の行うカウンセリングは保険適用外であること⁽⁷⁾も独立開業の足かせになっていると言われている。

以上のことから、一見、成功し発展を遂げているように見受けられるものの、資格制度問題や保険制度問題、カウンセリングそれ自体の不定着や限界、他職種との競合、専門職化への問題等、臨床心理士をめぐる厳しい現状が存在しているとまとめることができる。こうした現状も踏まえた上で、次章では、独立開業する臨床心理士へのインタビュー調査を通して、開業臨床心理士の視野や発想、研修や業務といった実態を具体的に把握してみたい。

Ⅲ. インタビュー調査の概要

1. 調査目的

本研究は、高度専門職としての独立型社会福祉士の専門性や固有性について考察、提示し、研修プログラムの考案を含めた開業システムの構築を目指している。こうした研究過程において、本インタビュー調査は、隣接する専門職種で、すでに独立開業し、ある一定の発展を遂げている臨床心理士に焦点をあて、何を基盤に、どのような知識や技術をもって独立開業し、相談支援を展開しているのかについて現状を明らかにし、そこから、独立型社会福祉士の専門性や固有性、それらを担保する研修のあり方について示唆を得ることを目的とする。なお、インタビュー調査は、弁護士、独立型社会福祉士へも実施しているが、これらについては別稿で報告したい。

2. 調査対象および調査期間

調査対象者は、平成 22 年度に実施したアンケート調査⁽⁸⁾において、本インタビュー調査の趣旨に賛同し協力を得ることができた独立開業する臨

表 1 調査対象者の概要

調査対象者の概要		都 市 エ リ ア		郊 外 エ リ ア	
開業エリアの人口 (H22)		A	B	C	D
Ⅰ. 基本属性	性 別	約147万人 女性	約37万人 女性	約17万人 男性	約2万人 男性
	年 齢	51-55歳 大学院	51-55歳 大学	56-60歳 大学	36-40歳 大学
	最終学歴		臨床心理士 保育士 中学校教諭 高校教諭	臨床心理士 中学校教諭 日本精神分析学会認定心理療法士 同認定スーパーバイザー	臨床心理士
	保有資格	臨床心理士			
	資格登録年数	5-10年	15-20年	20年以上	5-10年
Ⅱ. 開業状況	独立開業年数	5年未満	10-15年	20年以上	5年未満
	現在の 保有ケース数	10-15ケース	5-10ケース	20-25ケース	5ケース未満
	平成21年所 得	200-300万	500-600万	700万以上	300-400万
	協力関係 専門職	医 師 看護師 教 員 臨床心理士	教 員 臨床心理士	医 師 教 員 臨床心理士	医 師 教 員 臨床心理士
	平均勤務時間 (1週間)	20-30時間	30-40時間	50-60時間	20-30時間
Ⅲ. 研修受講状況	新ケース数 (1ヶ月当り)	3ケース	5ケース	2ケース	1ケース
	新ケース 受理経緯	紹介 (クリニック、EAT、知り 合い)	依頼(提携カウンセリング センター) 直接電話	紹介	紹介 (スクールカウンセラー先) ホームページからの問い合わせ
	年間受講回数	11回以上	7回	11回以上	11回以上
	研修内容	対象理解 援助技法 事例検討会 独立開業	援助技法 事例検討会	対象理解 援助技法 事例検討会	対象理解 援助技法 事例検討会

床心理士のうち、都市エリア2名、郊外エリア2名の計4名である。アンケート調査から得られた対象者の概要は、表1の通りである。調査期間は平成24年1月～3月で、協働研究者3名を加えた計4名で分担し行った。

3. 調査方法及び内容

インタビュー調査は半構造化面接法を用いて、1人あたりの調査時間は1時間30～2時間とした。調査内容は、1) 独立開業に至るまでの経緯、2) 独立開業の状況、3) 教育・研修の状況、4) 職種・資格のアイデンティティ、5) 独立型社会福祉士の認知度の5項目である（質問詳細は、巻末資料を参照）。

IV. インタビュー調査の結果

調査結果は、表2から6の通り、上記5項目について要約し整理した。表2は、1) 独立開業までの経緯について整理したものである。①4名ともクリニックや総合病院等での臨床経験後に独立し、C氏以外は、行政や教育委員会に雇用された経験もあった。②開業理由は、A氏が、ハードとソフトの両面で準備が整ったことを理由に、B氏は、夫の独立を理由に挙げている。C、D氏は、「本当にしたかったことをしたい」、「好きなことができそうに思えた」と、臨床心理士としての裁量権を最大限に行使したいという専門職としての欲求が開業につながったと述べている。③開業に至るまでの準備では、相談室の設備準備、関係機関や近隣住民への挨拶まわり、税務署へ開業届の提出、広告の掲載、臨床心理士保険加入、銀行口座の開設等のハード面に加え、C氏の述べた「独り立ちへの不安」や「有料でカウンセリングを行うことへの罪悪感」等、これまでの環境と異なる形態での心構えといったソフト面での準備も要することがわかった。

次に、2) 独立開業の状況（表3参照）についてである。①開業形態は、

表 2 独立開業までの経緯

インタビュー内容	都 市 エ リ ア		郊 外 エ リ ア	
	A	B	C	D
①開業までの経歴	セクシャルハラスメントの相談員 精神科クリニックのカウンセラー 施設のカウンセリング相談室の 相談員	総合病院のカウンセラー 児童相談所のカウンセラー 児童虐待者職能センターのカウ ンセラー スクールカウンセラー	精神病院のカウンセラー	病院のカウンセラー スクールカウンセラー カウンセラーへのスーパーバイジョン
②-1 開業を考え た時期と理由	独立開業場所の目途がついたら、 独立前に「独立したら1人、相 談者に関わってほしい」と言わ れていた。	夫の独立を機に開業。	ほんとうにしなかったかったから (精神分析「ほんとの話」)。しかし、 病院の患者は症状の緩和を求めて いることが多い。	楽しそうであることが出来そう に思えたから。好きな日に休め、 他人に指図されないで気が楽。直 接的な開業モデルは指導教員やスー パーバイザー。資格試験時、面接 官に「あなたは開業する気があり ますか?」と尋ねられて「はい」 と答えたこと、それについてポジ ティブに反応されたことも後押し になった。
独立開業までの経緯	準備：精神科クリニック、近隣 住民への挨拶回り、個人サイト の開設。	準備：カウンセリンググループ の設備整備（エアコンの設置 等）、タウンページ・インター ネット・タウンページに広告掲 載。	準備：	準備：広範囲でどうしたらいいの か分からず、結局、広報をしてい ない。相談室の設備整備。
	手続き：	手続き：税務署への開業届け、 臨床心理士保険への加入、銀 行口座の開通等。	手続き：	手続き：
②-1 開業を考え た時期と理由	苦勞：集客面。	苦勞：自宅で開業したので準 備はさほど大変ではなかった。	苦勞：開業当時は臨床心理士が少 なく、前勤務先の医師から患者を 紹介してもらったので集客面での 苦勞はなかった。①ひとりでたす めることへの不安、②料金を直接も らうことから「喰いものにするさ れる」という幻想（罪悪感、逆転 移）からなかなか自由になれず、 善意の自身を自己吟味。無条件の 奉仕ではなく、高いお金をもらう ことがプロの口だと思いうに至った。	苦勞：程よい退行を促しそうなソ ファア探しに一番時間がかかった。

独立開業までの経緯

C氏のみ有限会社として事務所を開設し、A、B、D氏は個人事務所の形態であったが、D氏のみ、いずれ合同事務所へと形態を変えたいと述べていた。①-2 開業場所の選択理由では、「事務所開設の目途がついたから」、「無理のない範囲で開業するため」、「アクセスが良いから」、「前勤務先から近く、患者の紹介が得られるから」等、地域特性だけでなく、勤務先との兼ね合いで最善の場所を選択していることがわかった。②-1 新しいケースを受理するまでの経緯では、4名ともに関連する病院や職場からの紹介や依頼が多く、協会および個人のホームページ・サイトを経由した問い合わせもあると述べていた。開業経験が最も長いC氏においては、「(自分のスタイルに) 合わないケースは断る」とし、スペシフィックなカウンセリング業務で開業していることが伺えた。②-2 主な相談支援内容では、職場内の人間関係、休職、復職に関するケース、夫婦問題、発達障害、不登校やいじめ、引きこもり等に関するケース等様々であった。②-3 連携する機関は、A、C氏が精神科クリニック、B、D氏は、学校現場で働いていることもあり、学校や適応指導教室と連携していた。また、個人ネットワークを活かした施設、機関との連携もみられた。この現状を鑑み、②-4 連携する専門職種は、A、C、D氏が精神科医、B、D氏は教員と答えている。ここで特筆すべきことは、B氏の「専門機関にかかっても改善されないことから相談にくるケースが多いので、こちらから専門機関につながることはほとんどない」という発言である。これは、既存のカウンセリング機関で対応できない困難ケースに関わる、すなわち、独立開業する臨床心理士が「最後の砦」として地域に存在していると理解することができる。そして、③-1 広報の方法とその効果について、A、C氏は、広報や看板よりも、これまでの人脈や実践効果の口コミ等を重視していた。また、A、D氏は、個人のホームページによる広報は効果がないとしている一方、B氏は、インターネットのタウンページ経由での集客が多いと述べている。③-2 他機関の専門職等からの認知度は、県の臨床心理士会を通じた同職

種への認知度（B、C氏）、これまでのつながりを通じた認知度（A、D氏）はあるようだが、いずれも関与しない専門職からは認知されていないと述べている。③-3 地域住民からの認知度については、地元で開業したA氏以外は、ほとんどされていない状況であった。

④-1 料金体系とその基準に関しては、個人面接の場合、初回 10 分あたり A 氏が 1000 円、B 氏が 1330 円、C 氏が 1660 円、D 氏は 880 円、2 回目以降の面接では、A 氏が 50 分 5000 円、B 氏が 60 分 8000 円、C 氏が 50 分 1000 円、D 氏は 50 分 6000 円であった。料金体系の参考基準は、他県で既に開業している事務所やスクールカウンセリングの時給等を参考にし、C、D 氏においては、来談者の経済状況によって料金を変動させていた。④-2 平成 22 年度の臨床心理士としての所得は、200 万～700 万円以上と幅があるものの必要経費は 100～150 万程度と共通していた。こうした所得に対し、④-3 社会的評価が反映されているかという質問に対し、B、D 氏は反映されていると実感しているのに対し、A 氏は「楽しんでやっているが、開業分だけでは生活するのは無理だと思う。社会的評価より自分の思いを大事にして開業している」と述べている。

⑤利用者のニーズ充足をめぐる問題・課題について、A 氏は、相談料金が来談を拒む原因になっていることを問題視し、B 氏は、解決できない問題はないとする一方で、C 氏は解決できない問題があることを表明することの重要性を述べていた。D 氏は、事務所の場所が分かりづらいこと、ホームページの更新等、カウンセリングを必要としている人に伝わっていないことを問題として挙げていた。しかし、広報に力を入れすぎると一人で対応できなくなるため、バランスを保つことが難しいと述べている。⑥今後の活動課題、必要な活動としては、B、D 氏は、災害ボランティアを、A 氏は、社会福祉士との連携システムの構築、C 氏は、学会等での研究発表を挙げていた。

次に、3) 教育・研修の現状と要望（表 4 参照）の①独立した後に必要

表 3 独立開業

インタビュー内容	都 市 エ リ ア	
	A	B
①-1 現在の開業形態にした理由	個人事務所。自分の自由がきくのでやりやすいから。	個人事務所。夫と開業したので、当初から他の臨床心理士と合同で開業することは考えていなかった。
①-2 開業場所の選択理由	開業場所の目途がついたから。	スクールカウンセラーとしての勤務時間を考慮し、無理のないよう自宅にカウンセリングルームを併設。
②-1 新ケース受理までの経緯	臨床心理士ホームページにある「臨床心理士に出会うには」からの電話、メール。クリニックからの紹介。相談件数の少なかった個人のサイトは現在閉鎖。	インターネットタウンページからの問い合わせ。提携カウンセリングセンターからの依頼。
②-2 主な支援内容	仕事にいけない会社員のケース、夫婦問題によるうつケース、大学院生へのスーパービジョン等。	精神科の投薬でも改善しないケース、職場における人間関係困難ケース（休職・復職の相談を含む）、発達障害のあるケース、不登校やいじめのケース等。
②-3 連携機関の有無と内容	精神科クリニック、EAP（Employee Assistance Program、従業員支援プログラム）。	保健所、精神保健福祉センター、適応指導教室等から連携の申し出がある。他機関と直接連携するのではなく、相談者と話し合い、相談者やその家族が動けるように助言。
②-4 連携専門職の有無と内容	精神科医、大学の先生（院生のスーパービジョン）等。	専教員。門機関にかかっても改善されないことから相談にくるケースが多いため、専門機関につなぐことはほとんどない。
③-1 広報の方法と効果	個人サイトを見て来る人は少なかった。EAP やクリニック等、これまでのつながりの中で、新たに相談を受けることが多い。広報は積極的にしていない。相談者のプライバシーのために看板はあえて出さない。	多くのケースを受けることができないため広報はタウンページ、インターネットタウンページのみ。最近はインターネットタウンページをみて問い合わせをしてくる人が多い。
③-2 他機関の専門職等からの認知度	認知をを広くとらえれば、私は無名だと思ふ。これまでのつながりを通じての認知度ならあるかもしれない。	県の臨床心理士会に所属しているため会員には周知されている。学校関係、精神保健福祉関係等の専門職の方々にはある程度認知されている。
③-3 地域住民からの認知度	生まれ育った地域のため、顔見知りも多い。	
④-1 料金体系と基準	50 分 5,000 円。 カウンセリング訓練プログラムの基準が 50 分 6,000 円。それを目安にしている。	個人面接：初回 120 分 16000 円。2 回目以降 60 分 8000 円。複数面接：初回 120 分 26000 円。2 回目以降 60 分 13000 円。他府県のカウンセリング料金を参考。
④-2 平成 22 年度の臨床心理士としての所得と必要経費	約 100 万（1 ヶ月約 8 万円）。必要経費は電気代、水道代、電話代のみ。	約 5～600 万円。必要経費は約 150 万。
④-3 所得と社会的評価の関係性	楽しいが開業収入だけでは生活するのは無理だと思う。社会的評価より自分の思い（楽しくやっていること）を大事にして開業している。	臨床心理士資格が条件となる仕事をしているので、反映されていると思う。
⑤利用者のニーズ充足をめぐる問題・課題	相談者からすると相談料が高いかもしれない。	問題を突き詰めていけば相談者の内側の問題（心の問題）に行き着く。解決できない課題はないと思う。
⑥今後の活動課題、必要な活動	社会福祉士と一緒に連携し、連携システムができることを願っている。	昨年 9 月、台風 12 号による豪雨災害のため紀南地方に心のケアのための緊急支援に行った。災害、事故、事件等何かが起きると飛んでいかなければいけない立場にある。開業だけでなく、今後もこのような公的活動は続けていかなければならないと思っている。

独立型社会福祉士の開業システム構築に向けた研究

までの経緯

郊 外 エ リ ア	
C	D
有限会社、店子制。心理士4名、事務員1名。所属する3名の心理士から収入の3割をもらう。研修目的の研究者には週1、2回場所の貸与。条件としてC氏のスーパービジョンを受けること。	個人事務所。臨床家として力をのばすためにも、お金を貰って継続的に面接が出来るような場が必要。後輩の力がついてきたら合同事務所の開設予定。
前勤務先に近く、駅からも近いので、患者を紹介してもらいやすいから。	中心地から少し離れた所だが、自然や公共施設のある雰囲気と、県内ならどこへも1時間以内にいけるというアクセスの良さから。
精神科医からの紹介。自分のスタイルに合わないケースは断る。	インターネットのホームページからメールでの問い合わせ。他の職場で会っている職員やクライアントからの紹介や依頼。
成人した発達障害のケース、親のガイダンス等。精神分析を中心にカウンセリング。	不登校やひきこもりのケース、不安神経症のケース、後輩へのスーパービジョン等。
精神科クリニック。	自分の勤める学校関係、外部講師で勤める若者サポートステーション。
精神科医。	精神科医、教師、キャリアコンサルタント。主に情報共有やコンサルテーション。
個人サイトはあるが、それを見て来る人はほとんどいない。不特定多数へのアピールではなく、研修会などで人脈を作り紹介してもらう。宣伝は意味がない。不安なので目立つ看板を立てたいが仕事の中心で勝負。	実際に知り合った人、一緒に働いている人に相談室を開業していると伝えている。個人サイト、県のスクールカウンセリングリファラー先リストからの反応はあまりない。
26年やり、県の臨床心理士会の研修委員も務めたので、そこそこ周知されている。	直接面識のある人以外には全くされていない。
わからない。	誰にも知られていない自信がある。
個人面接：初回60～90分15,000円。2回目以降45～50分1,000円。相談者の経済状況により変えることもあるが安易には下けない。	初回90分8000円。2回目以降50分6000円。スーパービジョン：120分6000円。相談者やバイザーの経済状況により減額することもある。
	スーパーバイザーやスクールカウンセリングの時給を参考。
実収入で約700万以上。必要経費は多い。	所得全体では約400万。必要経費は約100万。
考えが甘い。社会的評価から自分の価値を考え直すべき。	反映されていると思う。特にスクールカウンセラーの時給は自分の実力とか云々ではないという気持ちがある。社会的評価というか、社会的期待がこの時給に現れていると思う。
できないことを明確にすることも仕事。	場所が分かりづらい。ホームページのの更新を怠っている。相談室の存在が伝わっていない。しかし、広報すると忙しくなり対応出来なくなる。他の臨床心理士にもこの相談室を使って面接をしてもらいたい。その担い手があれば広報も可能。
自分のケースを学会などで発表する。いろんな立場があるため、自分の主張をわかってもらえなかったり批判されたりすることが大事。御山の大将になりそうな自分がノーマライズされる。2者関係は幼乳的万能感を助長させやすい。だから倫理の問題も起こるのではないか。	福島県からの被災者支援する団体を臨床心理士中心に立ち上げ、ボランティアスタッフを募集し支援活動を行っている。今後、孤独や不安による自死やアルコール等の問題も出てくるかもしれない。上記活動の拠点場所、無料カウンセリングの場所として機能させていきたい。

だと感じた価値・知識・技術について、A氏は、「心理療法、精神分析、会話、カウンセリング場所を提供すること」とし、B氏は、「益はすべて相談者のためにと思っている。病院臨床を経験していたことで医療の知識は大変役立った。病気の捉え方や薬の知識がなければ、精神疾患のカウンセリングは困難だと思う」と述べている。C氏は、「支援者として自分自身を客観視する機会。批判されること」、D氏は、「最低限の金銭管理能力と構造を自分で作って行く力と、クライアントや関係機関との関係性について構造を柔軟に利用する力」と答えている。②支援に必要な価値・知識・技術の習得方法は、A、B、D氏ともに研修会への参加と述べている。また、他者から叱られること＝指導されていると受け止めているC氏や、D氏のように、一見すると心理学とは無関係な経験と見識が役立つという意見もあった。③今後必要となる価値・知識・技術については、カウンセリング技術の他、ジェネリックな知識の必要性、ネットワーク形成の必要性が指摘されている。④-1 これまでに受けた研修では、4人の共通点として「援助技法」、「事例検討会」が挙がっていた。臨床心理士会主催の研修会への参加に比べ、スクールカウンセラーの研修会、地域や仲間同士で行うスーパービジョン等への参加という意見もあった。④-2 研修の実施方法、内容、要望に関しては、A氏は、「カウンセリング訓練プログラムやクリニックでも研修をやっている。精神分析や対人関係論、夢分析等自由度の高いものをやっていきたい。個人的に沢山やるより1つのことをじっくりやりたい。どの研修も役に立つが、特に個人分析とスーパービジョンは密度が濃い経験となる。訓練としての数年にわたるプログラムは有意義だと思う」、B氏は、「実際場面ですぐに役立つ研修がうれしい。研修を企画実践する立場でもあり、県臨床心理士会が主催する研修会のうち学校臨床領域の研修を担当している。会員の要望を聞きながら可能な限り要望に沿って実施している」、D氏は、「教える人が教える立場に甘んじて、教わる人が教わる立場に甘んじてということではなくて、いろんなレベルの人

表 4 教育・研修の現状と要望

インタビュー内容	都市エリア		郊外エリア	
	A	B	C	D
① 独立してから必要だと感じた価値・知識・技術	心理療法、精神分析、会話、カウンセリング場所を提供することが大事。	益はすべて相談者のために、と思っている。病院臨床を経験していたことで医療の知識はよく定着した。病気の捉え方や薬の知識がなければカウンセリングは困難だと思う	支援者として自分自身を客観視する機会。批判されること。	最低限の金銭管理能力と構造を自分で作って行く力と、相談者や関係機関との関係性について構造を柔軟に利用する力。
② 支援に必要な価値・知識・技術の習得方法	大学院を修了し、カウンセリング訓練システムの研修を受けて続けている。	研修会等に参加して研鑽を積んでいる。	叱られることで指導されている。	読書、輪読会、研修会、事例検討会、海外生活等。仲間と見立てを共有したり、新たな見立てや価値観に触れたり出来る。
③ これから必要な価値・知識・技術	精神分析、認知療法。	〇〇療法というのにこだわらなくて、相談者に合った心理療法を提供したい。	器用貧乏にならない。専門性を高める。なにか「とりえ」。ネットワークをどう作るか。	カウンセリングでいえば、EMDRのような対象が明確で即効果の出るものが、伝統的な心理療法に取って代わる時代が近づいて来ている気がする。脳についての知見が「からだ」というキーワードで心理療法と繋がって新たな流れを作って行きそう。
④-1 これまでに受けた研修	臨床心理士会の研修を受け続けた。スクールカウンセラーの研修も受けている。	日本心理臨床学会や日本臨床心理士会等の主催する研修会、臨床心理士会が主催する研修会、精神保健福祉センターが主催するCRIT（緊急支援）研修等も受講した。	スーパーヴィジョン	精神分析的な心理療法のスーパーヴィジョン、事例検討会、ソリジェーションフォーカスアプローチの研修会、輪読会、グループスーパーヴィジョン、Tグループ等受講した。
④-2 研修の実施方法や内容、要望	カウンセリング訓練プログラムやクリニックでも研修をやっている。精神分析や対人関係論、夢分析等自由度の高いものを受けていきたく。個人的にたくさんやりたい。どの研修も役に立つが、特に個人分析とSVは密度が濃い経験となる。訓練としての数年にわたるプログラムは有意義。	実際現場ですぐに役立つ研修が欲しい。研修を企画実践する立場でもあり、県臨床心理士会が主催する研修会のような学校臨床領域の研修を担当している。会員の要望を聞きながら（事例中心のアドバイスを希望する方が多い）可能な限り要望に沿って実施している。		教える人が教える立場に甘んじて、教わる人が教わる立場に甘んじてというだけではなくて、いろんなレベルの人がそれぞれ学び合える場になればいいと思う。学ぶこと自体はモチベーションが高い集団があればいいと思う。事例を複数の人間で読み解くたびに新しい視点やアプローチに触れ自分の内側や実践にとり入らせていける気がする。技法理解の研修では、ソリジェーションフォーカスアプローチや精神分析が役立っている。援助技法の本の輪読会も重要。

教育・研修

表 5 臨床心理士としての

インタビュー内容		都 市 エ リ ア	
		A	B
職種・資格のアイデンティティ	臨床心理士として		
	①臨床心理士の使命	心を扱うこと、みえない部分を大事にする。関係性を大事にする。内面を大事にする。	面接場面でここがけているのは、「相談者が相談者らしく生きられること」を支えるということである。
	②臨床心理士ならでの役割	常識ででない部分でも入っていけるところ。心をみていけるところ。	相談者の心の中に入っていく仕事であるため、最終的には相談者の生き方を変える役割があると思う。
	③臨床心理士への社会的評価とその理由	全般的には、まだ認知されていない。臨床心理士を知らない人もいると思う。	阪神大震災以降、心の問題がクローズアップされる中で、臨床心理士の存在は社会に浸透してきた。また、学校にスクールカウンセラーがいるのは当たり前になり、社会的評価は高まっていると感じる。昨年9月の台風12号豪雨災害で紀南地方の学校へ緊急支援に行った折も、臨床心理士への期待は大変大きかった。
独立開業する臨床心理士として	④臨床心理士としてのアイデンティティを支えている価値・知識・技術	これまで勉強してきたことが支えになっている。臨床心理士であるかきりは正直でありたい。人に会うかきりは自由な気持ちでいたい。	相談者が問題を解決した後、自身のカウンセリングについてフィードバックしてもらうことがある。その相談者にとって何がよかったのかを聞く事は、大変勉強になる。自分を必要としてくれる人がいる限り役に立ちたいと思う。
	①独立開業する臨床心理士の使命	誠実に会いたい。相談に来られたからには、お役に立ちたい。	どの領域で活動しても臨床心理士としての使命は変わらないと思うが、開業しているとより広範囲に様々な分野から相談があるので、地域社会の精神保健福祉に貢献する使命を感じる。
	②独立開業する臨床心理士ならでの役割	人に言えない部分を取扱いながら考えていけるところ。	どの領域で活動しても臨床心理士としての役割は変わらないと思うが、開業していく仕事であるから、最終的には相談者の生き方を変える役割があると思う。
	③独立開業する臨床心理士への社会的評価とその理由	評価されていると思う。仕事の場面では重宝がられている。	精神的な問題をかかえた人が増えてきた中で、有料であってもカウンセリングを受けようという人も少しずつ増えているように思う。その意味では社会的に評価されているといえるかもしれない。
	④独立開業する臨床心理士としてのアイデンティティを支えている価値・知識・技術	しがらみもなく、人に会えるところ（会いたい）。	自分を必要としてくれる人がいる限り役に立ちたいと思う。これまでの知識、技術のどれかというよりこれらすべてが今の自分を支えていると思う。

がそれぞれ学び合える場になればいいなと思う。学ぶこと自体にモチベーションが高い集団があればいいなと思う。事例を複数の人間で読み解くたびに新しい視点やアプローチに触れ自分の内側や実践にとり入れていける気がする。援助技法理解の研修では、ソリューションフォーカスアプローチや精神分析が役立っている。援助技法の本の輪読会も重要だと思う」とそれぞれ述べている。

独立型社会福祉士の開業システム構築に向けた研究

アイデンティティについて

郊 外 エ リ ア	
C	D
「ほんとの話」をする（精神分析）。	①臨床心理学的な知見から見た今の社会に対して、何らかの形で心の健康についての提言をしていくこと。 ②臨床心理的な実践をすることで、実際に苦しんでいる人の力になること。③対人援助をしている人を臨床心理学的な知見と技術でもって支えること。
職人。自分は本格派としてやりたい。大衆受けする必要はない。	こんがらがっている人の頭を、自分自身がこんがらがらないようにひもといていくこと。
わからない。	ある一定の評価はされていると思う。普通の人が思う心のことに対応する資格だと、少なくとも対人援助色につく多くの人に認識されている実感があるから。
精神分析	精神分析的な個人の心に対する見立ての力と、システムアプローチから得たシステム論的思考、ソリューションフォーカスアプローチ的な介入方法。
「ほんとの話」をする（精神分析）	今は地域の臨床心理士の教育センターの機能が期待され、担い手になっているような気がする。その地域の心の健康について啓発出来る人、そして相談室が心の健康を求める人の選択肢の1つになり得ればいい。
職人。自分は本格派としてやりたい。大衆受けする必要はない。	職域にとらわれない心理士のネットワークの担い手になれば。各県に臨床心理士会があるが、もう少し身近で、小さなネットワークを作って行きたい。
わからない。	目立って評価はされていないと思う。多くの人から、大多数を占める健康な人からは見えないところで活動しているから。
精神分析	フロイトが始めた開業でセラピーをするという構造。もう一つは、地域社会に生きる1人の人間として、その地域を支えるユニークな役割を与えられているという使命感。

表5は、4) 臨床心理士としての職種・資格のアイデンティティについて整理したものである。まず、①臨床心理士としての使命として、A氏は、「心を扱うこと、みえない部分を大事にする。関係性を大事にする。内面を大事にする」、B氏は、「相談者が相談者らしく生きられることを支えるということ」、C氏は『「ほんとの話」をする（精神分析）』、D氏は、「臨床心理学的な知見から見た今の社会に対して、何らかの形で心の健康につ

いての提言をしていくこと。実際に苦しんでいる人の力になること。対人援助をしている人を支えること」と述べている。②臨床心理士ならではの役割は、心をみていく、生き方を変える、混乱している人の紐をといていく、そして、本格派の職人といった意見があった。③臨床心理士への社会的評価に関して、B、D氏は、ある一定の評価が得られていると感じている一方、A氏は、一般的認知、評価ともに低いと感じていた。④臨床心理士としてのアイデンティティを支えている価値・知識・技術について、A氏は、「これまで勉強してきたことが支えになっている。臨床心理士であるかぎりは正直でありたい。人に会うかぎりは自由な気持ちでいたい」、B氏は、「相談者が問題を解決した後、自身のカウンセリングについてフィードバックしてもらうことがある。その相談者にとって何がよかったのかを聞く事は、大変勉強になることである。自分を必要としてくれる人がいる限り役に立ちたいと思う」、C、D氏は共通して「精神分析」と答え、D氏はその他に、「システムアプローチから得たシステム論的思考、ソリューションフォーカスアプローチ的な介入方法」と述べていた。一方、①独立開業する臨床心理士の使命としては、誠実さ、地域社会の精神保健福祉に貢献する使命、臨床心理士の教育センター的機能といった意見があった。

また、②独立開業する臨床心理士ならではの役割では、A氏は「人に言えない部分を取扱いながら考えていけるところ」、B氏は、「どの領域で活動しても臨床心理士としての役割は変わらない。相談者の心の中に入っていく仕事であるから、最終的には相談者の生き方を変える役割があると思う」、C氏は、「職人。自分は本格派としてやりたい。大衆受けする必要はない」、D氏は、「職域にとらわれない心理士のネットワークの担い手になれば。各県に臨床心理士会があるが、もう少し身近で、小さなネットワークを作って行きたい」と述べていた。③独立開業する臨床心理士への社会的評価については、「有料であってもカウンセリングを受けようという人が少しずつ増えているように思う」という理由から、A、B氏は評価されていると

感じている一方、「大多数を占める健康な人からは見えないところで活動しているから」と言うC、D氏は、評価していないと述べた。④独立開業する臨床心理士としてのアイデンティティを支えている価値・知識・技術は、「これまでの知識、技術のどれがというよりこれらすべてが今の自分を支えている」、「フロイトが始めた開業でセラピーをするという構造」、「域を支えるユニークな役割を与えられているという使命感」といった意見があった。

最後に、5) 独立型社会福祉士の認知度についてである（表6参照）。①社会福祉士への認知度と理解している業務内容について、A、B氏ともにスクールソーシャルワーカーの存在を挙げている。また、関係機関をつなぐ役割の専門職、社会問題の解決をする専門職、法律、医療、福祉と様々な面から専門的な知識と柔軟な観点から支援する専門職という意見があった。②社会福祉士と協働したケースについては、A、B、D氏が、スクールソーシャルワーカー、精神保健福祉士と協働した経験などがある一方で、C氏は1度もないと答えている。③独立型社会福祉士への認知度と理解している業務内容では、全員その存在自体を知らず、それゆえに④独立型社会福祉士との協働ケースもないことがわかった。⑤独立型も含め社会福祉士に対する期待としては、A氏が「カウンセリングへつなげる役割」、B氏が「関係機関（担当者）と太いパイプを作って、困難なケースに対応してもらいたい」、C氏は「市の無料相談（原則1回限り）のあとのフォローアップ。お金がない場合も多い」、D氏は「組織の枠にとらわれてできないこと、本当はこうすればいいのにならみんな分かっているけどできないこと、そんなことをできる人なのかなと期待している」と述べている。⑥社会福祉士と連携可能な業務については、精神疾患や知的障害、発達障害などが基盤にあるケース、単身家庭の経済的問題を抱えるケース、引きこもりのケース、虐待家庭への介入が必要なケース、アウトリーチを含めた連携といった臨床心理士による心のケアだけでは対処しえない問題への連携

表 6 臨床心理士からみた独立型社会福祉士の認知度

インタビュー内容	都 市 エ リ ア			郊 外 エ リ ア		
	A	B	C	D		
①社会福祉士への認知度と理解している業務内容	ソーシャルワーカーだと思う。スクールソーシャルワーカーも知っている。	学校でスクール・ソーシャルワーカーと一緒に仕事をしているので、社会福祉士という資格は知っている。関係機関と連携してつなぐ役割をしている。	社会的問題の解決	知っている。福祉を必要とする人を、法律や医療、福祉と、様々な面から専門的知識とネットワークから支える人。		
②これまでの社会福祉士と協働ケースの有無と内容	学校でスクールカウンセラーとしてスクールソーシャルワーカーと関わっている。	不登校生徒のケース。母親がうつを発症しており、小学校から中学校に進学する際、小学校での様子や家庭の状況を伝えてもらい連携して関わった。	ない。	精神科病院の心理士として、患者さんの受診から入院まで、違った立場から寄り添い支える仲間として協働していた。		
③独立型社会福祉士への認知度と理解している業務内容	知らない。	知らない。社会福祉士は関係機関との連携、医療・福祉関係の書類を作成する際の助言や支援、環境調整や相談等の業務をする人と理解している。	よく知らない。	知らない。いろいろな機関の枠を超えてケースマネジメントをするのかな？		
④これまでの独立型社会福祉士と協働ケースの有無と内容	知らない。	ない。	ない。安易に個人の問題に帰さない。まわりの人間関係や環境を捉えることで解決する問題もあると思う。	ない。		
⑤（独立型）社会福祉士に対する期待	カウンセリングへつなげる役割を期待している。	関係機関（担当者）と太いパイプを作って、困難なケースに対応してもらいたい。	市の無料相談（原則1 回限り）のあとのフォローアップ。お金がない場合も多い。	組織の枠にとらわれて出来ないこと、本当はこうすればいいのになんか分からないこと、そんなことを出来る人なのかと期待している。		
⑥（独立型）社会福祉士と連携可能と思われる業務	自分ですべてをやより連携してやる方がよい。	精神疾患や知的障害、発達障害などかベースにあるケースは比較的多い。単身家庭の経済的問題や虐待ケース等もある。そのようなケースはどれも連携可能と思われる。	虐待に関する研修会（ネットワーク作りを兼ねたもの）。	引きこもりのケースへの対応と、虐待等への介入が必要なケース。アウトリーチを含め連携したい。		

独立型社会福祉士の認知度

を挙げている。

V. 考 察

以上のインタビュー調査の結果を整理、分析しながら、独立型社会福祉士の開業システムに不可欠な専門性や固有性、研修プログラムの方向性について考察してみたい。なお、どの質問に対しても都市、郊外の地域差はみられなかった。

まず、1) 独立開業に至るまでの経緯である。専門職業化してきた社会的背景から考えると、医師や精神科医の指示の下で、「カウンセリング業務」を担い発展してきた臨床心理士は、職場の方針や限られた業務範囲といった裁量権の乏しい現状と、来談者中心の理想的なカウンセリングによる相談支援の間にズレが生じ、「業務」と「職務」の間にあるジレンマに直面していた。それが、高度な知識や技術をカウンセリング場面でより活かしたいという欲求となり、独立開業の契機になっていると推察できる。こうした所属する組織・施設への義務と来談者への義務が一致しないという理想と現実のジレンマや「職務を全うしたい」といった欲求は、社会福祉士においても同じように存在し、独立型社会福祉士として開業する大きな契機や原動力、持続力の1つであるといえる。

2) 独立開業の状況では、一般的に無料であるカウンセリング面接を有料で行うからこそ費用対効果は熟慮されており、合理的かつ最適な宣伝方法、面接時間と料金設定、フォローアップ方法等が設定されていた。しかし、地位確立にむけた努力過程の最中であり、社会的な確立や承認にむけたアプローチの方法は、地域格差こそ見られなかったものの個人差が顕著で、自己の価値観、駆使できるカウンセリングの知識と技術、臨床の知、ネットワークの有無や活用等に左右されていた。また、C氏の「職人になる」という表現が表わしているように、開業自体が属人的かつスペシャリ

ストなスタイルで確立してきている一面と、B氏のように幅広い療法を提供できる臨床心理士を目指している事務所もあることから、ジェネラリストとして開業するスタイルの2つが混在していると考えられる。

これらを踏まえると、独立型社会福祉士事務所もこの2つのスタイルが想定される。しかし、先述したように、昨今の社会生活問題の複雑かつ多様化した現状に鑑みると、①参加と協働による利用者主体の実現、②エコシステムの視座による広角的かつ継続的な課題理解と支援展開、③早期かつ積極的な予防、発見、支援となるアウトリーチ、④ミクロからマクロを循環する一貫した支援体制といったジェネラリスト・ソーシャルワーカーの専門性の上に、はじめて各分野や特殊な状況に専門特化したスキルが効力を発揮すると考えられ、まずは2つのスタイルのうち、ジェネラリストの視野や発想による独立開業の普及と実績が必要でないと推察できる。

3) 教育・研修の状況では、義務化された研修制度が功を奏し、4名とも役に立つと答えていることから、質、量ともに充実していることが伺えた。しかし、共通する価値基盤は見受けられず、個人の価値観に影響していると推察できた。また、経営的戦略、連携構築等の独立開業に不可欠な研修はさほど多くなく、手探り状況のなか開業している様子も伺えた。研修のあり方については、実践ですぐに役立つ具体的なものが望ましく、個々のもつカウンセリング技法の引き出しを充実させたいといった要望もあった。これは、社会福祉士養成課程で様々な実践理論とその具体的方法を教授するようカリキュラム化されたこととも関連している。つまり、地域の様々なニーズに対応すべく、心理学や社会福祉学でこれまでにみられた「抽象的な概念や理論の学習」ないし、現場でみられた得意な技法のみで支援する「〇〇療法家」になるのではなく、臨床の場で、どんな実践理論が、どのように具体的に展開され、その効果や問題点がどのようなものであるかを理解し、誰であろうが、ニーズに応じた支援が科学的に展開できるようにならなければ、もはや専門家として成立しないことを意味してい

るといえる。

こうした臨床心理士の教育・研修状況から独立型社会福祉士の研修を考えると、価値・知識・技術というソーシャルワークの体系、論理的枠組みの理解という基礎理論を前提におきながら、ミクロからマクロを循環する支援展開への視野や発想の習得が必要であると考ええる。その上で、個別・具体的なアプローチ、支援技法、分野、領域、特殊性を考慮した知識を習得するとともに、臨床の知も用いて「引き出し」の充実を図れば、迅速性、柔軟性、創造性に富むコンピテン스가強みの独立型社会福祉士ならではの実践が可能になるのではないかと考える。

4) 臨床心理士としての職種・資格のアイデンティティ、すなわち臨床心理士の固有性については、4人とも個人の内面を支援する役割を担う専門職であると共通認識していた。今後も、「心」に焦点をあてた精神分析的な視座による相談支援や研修に取り組む一方で、職域に捉われない支援活動の必要性から、ネットワーキングや教育支援等関連する取り組みの重要性も感じていた。これは、地域での独立開業を目指す過程において不可欠な視点であるといえる。来談者や相談者が納得、実感できる変容や改善といった目にみえる効果は当然のことながら、事務所経営が成立するだけの集客を確保するには、直接的な収入にならなくても地域活動へ積極的に参加し、後輩専門職の育成に携わっていくことが独立開業する専門職の大きな役割の1つである考える。独立型社会福祉士においても、「利用者と環境への視野から社会福祉諸サービスの提供を通じ包括統合的に実践するソーシャルワークの専門家」という軸がぶれないよう、関連するその他の取り組みへの積極的関与が重要であると考ええる。

最後に、5) 独立型社会福祉士の認知度についてである。社会福祉士への認知度は、学校や病院等、同じ職域で活躍、協働する存在から認知されていたものの、独立型社会福祉士となると全く理解されていなかった。量的な現状も認知度が低い要因の1つではあるが、臨床心理士からの期待度

から考えてみても、独立型社会福祉士の育成と輩出は、社会福祉士養成と並び社会福祉士養成課程における今後の一大課題であるといえよう。

以上の臨床心理士における独立開業の現状から、高度専門職として独立型社会福祉士の有すべき専門性や固有性について、太田義弘のソーシャルワークの専門性、固有性を参考に⁹⁾考察すると次の4点に整理することができる。

- ①枠組：ソーシャルワークの価値・知識・技術の体系と論理的枠組み
- ②理念：ノーマライゼーションに基づく人権擁護と社会正義
- ③方法：科学的な実践理論と生活理解
- ④実践：参加と協働による一貫した支援過程

①枠組：ソーシャルワークの価値・知識・技術の体系と論理的枠組みとは、実践の共通基盤となる価値・倫理の理解と、生活ニーズに応じた知識（西洋科学の知、臨床の知）の取捨選択と活用、包括統合的に体系化されたソーシャルワークの枠組みによる支援展開ができる実践者であることを示している。②理念：ノーマライゼーションに基づく人権擁護と社会正義とは、利用者の地域生活における課題解決や自己実現にむけ、組織業務にとられない自由な立場で裁量権を発揮し、地域構成員かつ高度専門職としての責任を全うするソーシャルワーク実践者であること、すなわち、人権擁護と社会正義の価値実現を目指す社会福祉の専門家であることといえる。③方法：科学的な実践理論と生活理解とは、論理的に実践を説明すること（論理性）、つねに主観と客観、主体と客体、観察者と観察対象との立場を意識化すること（客観性）、理論の適応範囲が広く、例外なくいつでもどこにでも誰にでも妥当すること（普遍性）を網羅した生活理解と実践であることを示している。また、④実践：参加と協働による一貫した支援過程とは、利用者主体による支援展開による参加と協働を実現し、ミクロからマクロまで幅広い視野で一貫した支援展開のできるソーシャルワー

ク実践者であることを指している。

こうした独立型社会福祉士の専門性と固有性を理解し、発揮できる機会をより増やしていくためには、ジェネラリスト・ソーシャルワークの基礎理論はもとより、わが国の社会システムに応じ具現化できる方法として考案されているジェネラル・ソーシャルワークの理論と方法による研修が必要であるとする。両者の相違については紙面の都合上、別稿に譲りたい⁽¹⁰⁾。

VI. おわりに

本研究では、既に地域社会で独立開業する臨床心理士に焦点化し、業務独占ではない専門家の独立開業をめぐるインタビュー調査の結果をまとめた。その背景には、確固たる論理的枠組み、専門職理念、科学的方法、固有な実践が必要であり、高度な専門性を担保する研修の充実と実績が不可欠であることが考察された。これらが備わりはじめて社会的評価や承認が得られ、専門職へと成長し、業務展開の可能性が広がっていくものと考ええる。生活問題が複雑化、長期化している今日、地域特有の問題や課題の克服、自己実現にむけ、しがらみのない自由裁量権を行使し、他職種とともにチャレンジする姿勢こそが独立型社会福祉士のあるべき姿であり、期待される機能であるとする。今後は、これらを保障しえる独立型社会福祉士への教育研修プログラムの構築が必要であり、①ジェネラル・ソーシャルワークの理論と方法の確立、②独立型社会福祉士のソーシャルワーク実践に基づくエコシステム構想の考案を喫緊の課題として挙げておきたい。

注

- (1) ソーシャルワーカーのジレンマに関連するものとして、①松崎倫子「権利擁護実践におけるソーシャルワーカーの価値ジレンマ--福岡県社会福祉士会の実践

- 事例から』『福祉研究』(101) 日本福祉大学社会福祉学会 2010 年 65-79 頁
や②本多勇・木下大生・後藤広史・國分正巳・野村聡・内田宏明共著『ソーシャルワーカーのジレンマ-6 人の社会福祉士の実践から』筒井書房 2009 年等がある。
- (2) 社団法人日本社会福祉士会 独立型社会福祉士全国ネットワーク委員会・独立型社会福祉士研修員会『独立型社会福祉士による地域ソーシャルワークの展開-地域の新しい相談拠点を目指して』社団法人日本社会福祉士会 2005 年
 - (3) 太田義弘、安井理夫、小榮住まゆ子「専門職業としてのソーシャルワークの役割と課題」『関西福祉科学大学紀要』(13 号) 関西福祉科学大学 2010 年 1-18 頁
 - (4) 東海開業臨床心理士協会ホームページ
<http://homepage2.nifty.com/tokai-society/index.htm>
 - (5) 丸山和昭「職業としてのカウンセラーに関する一考察」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』(第 55 集・第 2 号) 東北大学大学院 2007 年 28 頁
 - (6) 丸山和昭 前掲論文 5) 28 頁
 - (7) 丸山和昭 前掲論文 5) 28 頁
 - (8) 小榮住まゆ子「独立開業に関する臨床心理士へのアンケート調査報告-独立型社会福祉士の事務所開業にむけて-」『同朋論叢』2013 年投稿予定。
 - (9) 太田義弘 同朋大学大学院特別講義レジュメより 2012 年 2 月 6 日開講
 - (10) ジェネラリスト・ソーシャルワークについては、①佐藤豊道『ジェネラリスト・ソーシャルワーク研究-人間:環境:時間:空間の交互作用』2001 年 川島書店、②山辺朗子『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』2011 年 ミネルヴァ書房 等があり、ジェネラル・ソーシャルワークについては、①太田義弘・中村佐織・谷口泰史・秋山薊二・斉藤順子・佐野真紀『ジェネラル・ソーシャルワーカー社会福祉援助技術総論』1999 年 光生館、②安井理夫『実存的・科学的ソーシャルワーク』2009 年 明石書店 等がある。

巻末資料 臨床心理士へのインタビュー内容

1. 独立開業までの経緯について

- ①独立されるまでの経歴をお聞かせください。
- ②いつごろ独立しようと思われましたか。また、独立しようと思われた理由は何ですか。
- ③独立するまでの準備、手続き、苦勞された点などについてお聞かせください。

2. 独立開業の状況

- ①-1 現在の開業形態（個人事務所、合同事務所など）にされた理由をお聞かせください。
- ①-2 現在の場所（都市・郊外）を選択した理由を教えてください。
- ②-1 どのような経緯で新しいケースを受理されますか。
- ②-2 どのような支援内容が多いですか。
- ②-3 どのような機関との連携が多いですか。また、その内容をお聞かせください。
- ②-4 どのような専門職との連携が多いですか。またその内容をお聞かせください。
- ③-1 広報の方法とその効果を教えてください。
- ③-2 他機関の専門職等にどれくらい認知されていると思いますか。
- ③-3 地域の方にどれくらい認知されていると思いますか。
- ④-1 料金体系について教えてください。またそれは何を基準に決められましたか。
- ④-2 昨年度の臨床心理士としての所得と必要経費について教えてください。
- ④-3 現在の所得は、社会的評価が反映されていると思いますか。
- ⑤利用者のニーズに応えるための問題・課題はありますか。
- ⑥今後、どのような活動をしていきたいですか。またどのような活動が必要となってくると思いますか。

3. 教育・研修について

- ①独立してから、支援をするために必要だと感じた価値（考え方）・知識・技術にどのようなものがありますか。
- ②現在、支援に必要とする価値（考え方）・知識・技術はどのように習得されていますか。
- ③これから必要であると思う価値（考え方）・知識・技術はどのようなものですか。
- ④-1 これまで、どのような研修を受けられてきましたか（アンケート結果参照）。
- ④-2 研修の実施方法や内容についての要望をお聞かせください。

4. 職種・資格のアイデンティティについて

- 1) 臨床心理士として

- ①臨床心理士の使命は何だと思えますか。
 - ②臨床心理士だからこそ果たせる役割は何だと思えますか。
 - ③臨床心理士は社会的に評価されていると思えますか。それはなぜですか。
 - ④あなたの臨床心理士としてのアイデンティティを支えている価値（考え方）・知識・技術は何だと思えますか。
- 2) 独立開業している臨床心理士として
- ①独立開業している臨床心理士の使命は何だと思えますか。
 - ②独立開業している臨床心理士だからこそ果たせる役割は何だと思えますか。
 - ③独立型の臨床心理士は社会的に評価されていると思えますか。それはなぜですか。
 - ④あなたの独立型の臨床心理士としてのアイデンティティを支えている価値（考え方）・知識・技術は何だと思えますか。
5. 独立型社会福祉士の認知について
- ①社会福祉士をご存知ですか。また、どのような業務を行なっていると理解されていますか。
 - ②これまで、社会福祉士と協働したケースはありますか。それはどのような内容でしたか。
 - ③独立型社会福祉士をご存知ですか。また、どのような業務を行なっていると理解されていますか。
 - ④これまで、独立型社会福祉士と協働したケースはありますか。それはどのような内容でしたか。
 - ⑤（独立型）社会福祉士へ期待されることは何ですか。
 - ⑥（独立型）社会福祉士と連携可能と思われる業務は何ですか。

※ 同朋福祉編集委員会規定により「研究論文」としての査読済み

（本学専任講師：ソーシャルワークの方法）